

交通需要や市民生活に即した路線再編の取組

高槻市／吉岡昇 堂脇誠司 前田浩成 清水純 木村加代子 上田智子、 近畿大学／高橋愛典
毛海千佳子、 龍谷大学／井上学、 中央復建コンサルタンツ(株)／山室良徳 富久直哉

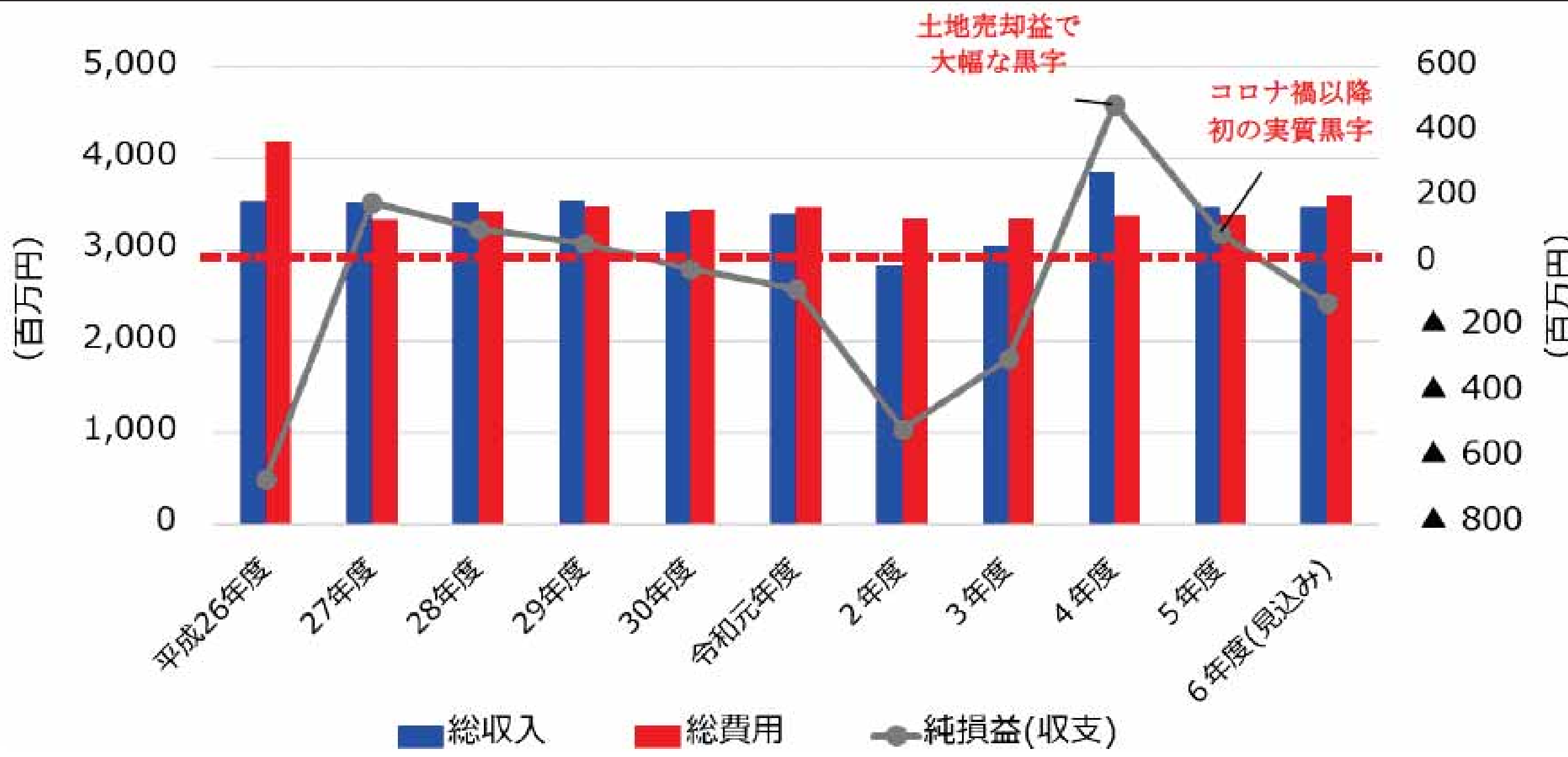


背景と目的



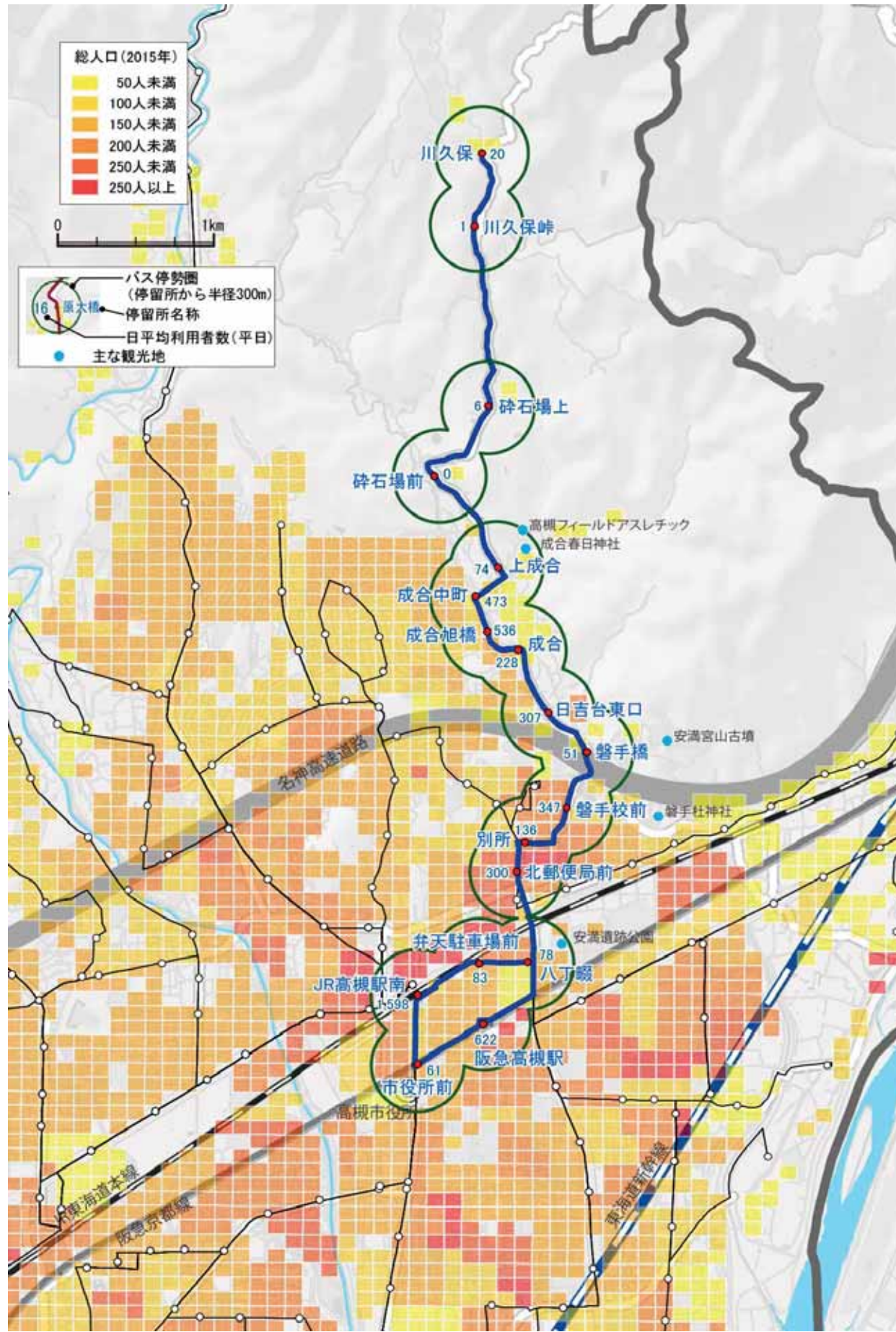
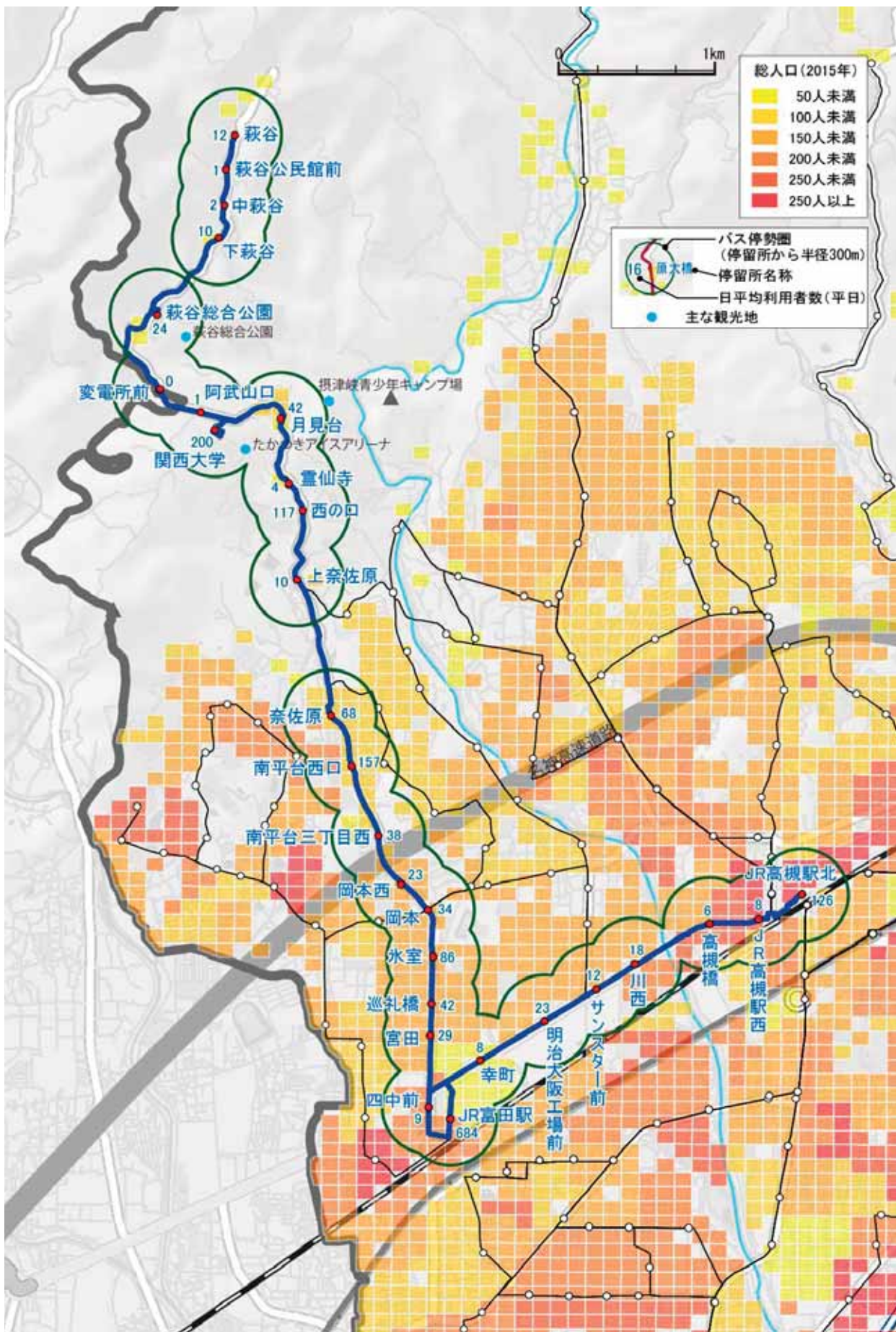
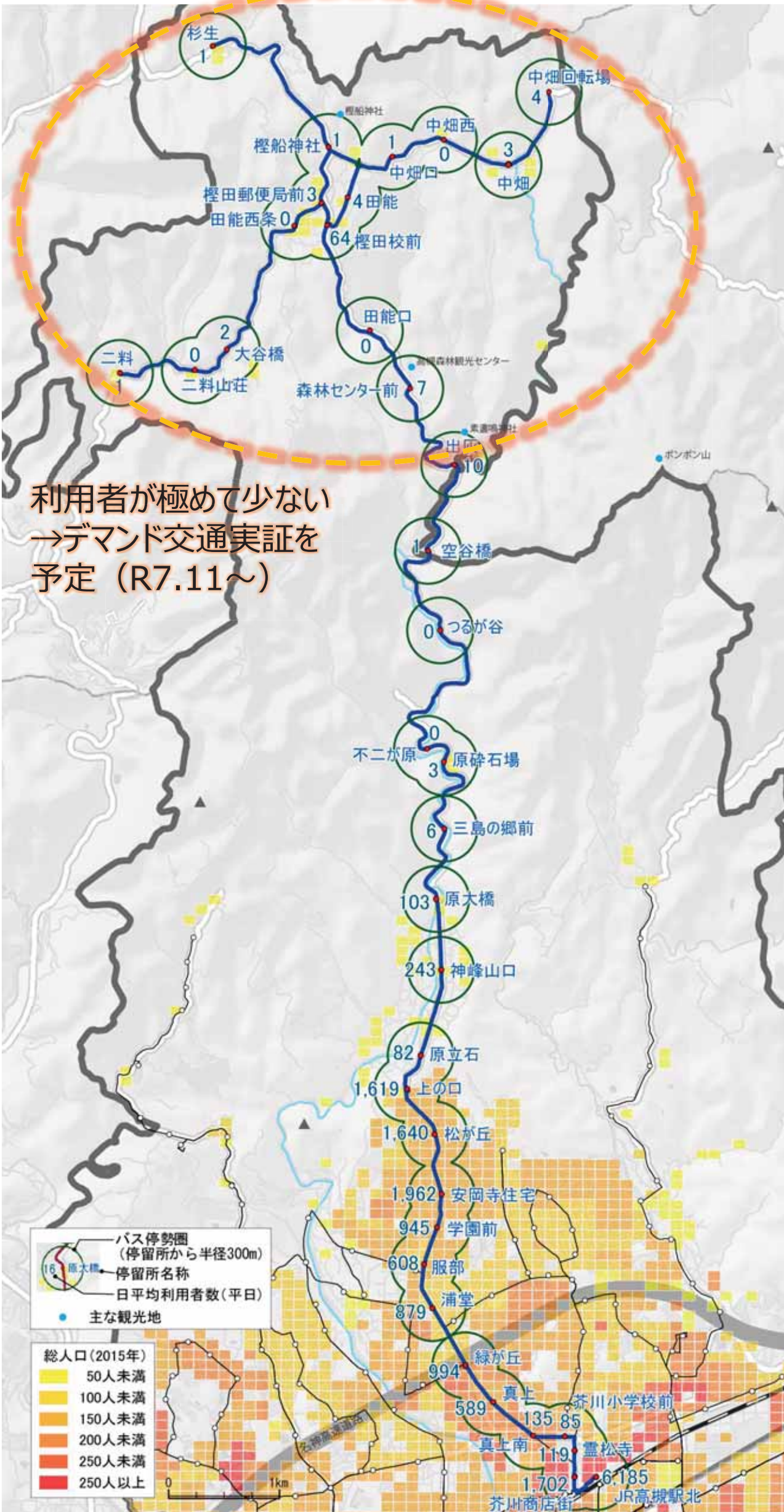
【高槻市交通部の経営状況】

- R4、5年度は、土地売却、効率的なダイヤ改正、支出削減効果等で黒字計上。しかし、R6年度以降は、2024年問題への対応や人件費の上昇などの影響を受け赤字、**今後も赤字が続く**見込み。
- R3年度から**新たな経営戦略**がスタートし、地域公共交通維持と経営基盤強化の両立を掲げ、交通需要や市民生活に即した路線再編等に向けた検討に着手。



【山間部3路線の状況】

- 市営バスの黒字路線は**全24路線中4路線**のみ。
- 特に赤字が大きい山間部3路線（田能線、萩谷線、川久保線）の北部地域は利用者数が非常に少なく、沿線人口集積が少なく今後も利用者増が見込めないことから、**田能線の一部区間について、令和7年11月からオンデマンド交通の実証運行**を予定。



【萩谷線】

【川久保線】

【田能線】

山間3路線の沿線の人口集積とバス停別利用者数（ICカード）

山間部バス路線に代わる新たな交通手段の検討



- 検討にあたっては、乗降データや人口構成をもとに、路線再編に係る検討範囲を設定し、住民へのアンケート調査を実施。
- 公共交通の改善に関しては、「1日の運行本数を多くする」や「乗りたい時間に利用できる」、「車両を小型化して集落を巡回する」ことへの意見が多かったことを踏まえ、**予約に応じて運行を行う区域運行の計画を立案**し、地域との意見交換や協議を重ね、地域における交通サービスの将来像や実証運行の実施について合意形成を進めた。

● 地域住民にとってより良い交通にするために

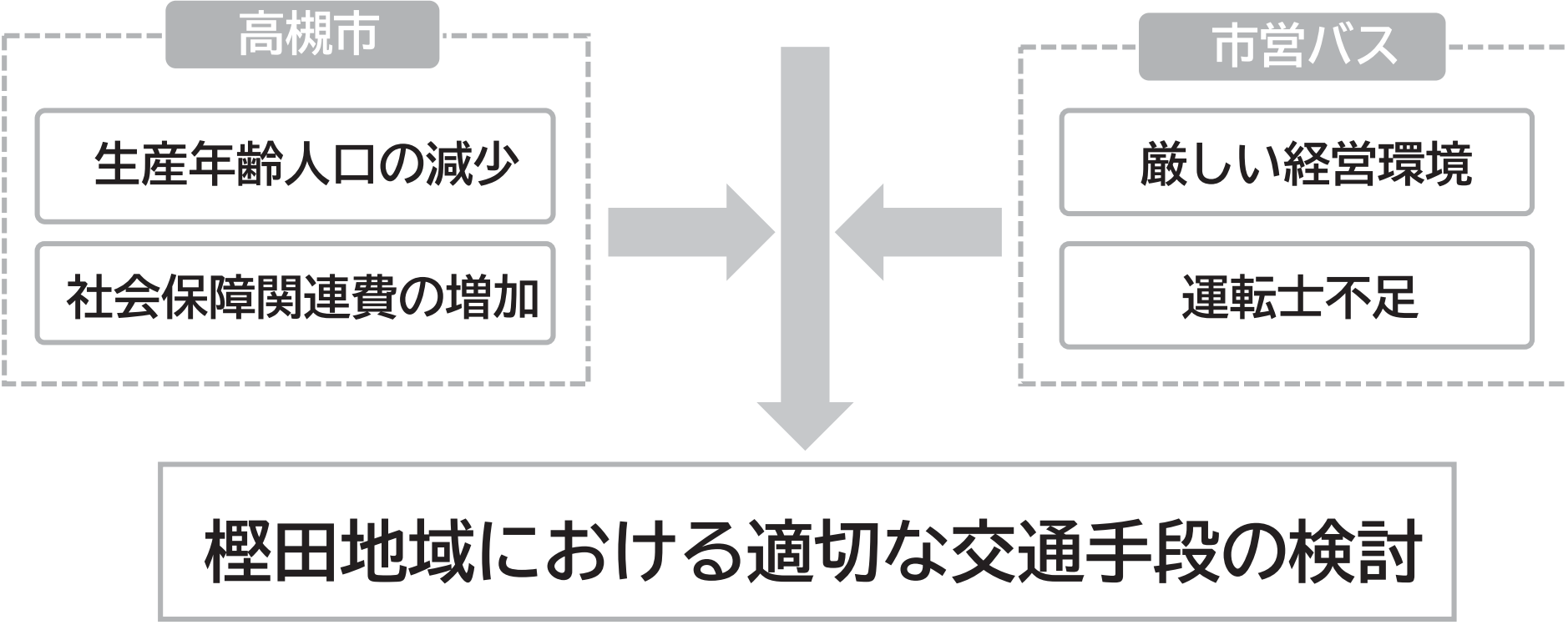
アンケート調査結果

● 地域公共交通の改善にあたって重視する点は？

- 1日の運行本数を多くしてほしい
- 乗りたい時間に利用したい
- 車両を小型化して地域を循環してほしい

利用状況

停留所名	令和元年度利用者数
二科	1
杉生	1
中畑回転場	4
榎田駅前	88
原大橋	127
上の口	2,156
安岡寺住宅	2,759
緑が丘	1,326
J R高槻駅北	8,440



実証運行内容と今後の予定



- 実証運行はR7.11開始の予定。
- 運行開始までの取組みとして、**地域への周知・広報**を行い、**体験会等の利用促進イベントの実施**や実証運行を契機とした**公共交通への関心を高める働きかけ**を進める予定。
- 運行開始後は、利用状況の把握や利用者や地域の声を拾いつつ、実証期間中にもより利用しやすいサービスへの改善に努めていく。

榎田地域デマンド交通実証運行計画（案）

内容については調査中です。今後、変更になる可能性があります。

- 運行区間** 原大橋～榎田地域
- 運行車両** 小型車両（10人乗り程度）
- 運行形態** ・基本ダイヤを設定し、**予約があった場合のみ運行**
・一人でも利用可能
・榎田小学校の**通学時間帯は、JR高槻駅北～榎田駅前間の大型バスによる運行を維持**
- 乗降箇所** 現在の市営バスの停留所を基本とし、将来的には榎田2号線を運行するルートを検討（停留所以外での乗り降りはできません）
- 運賃** ・料金は現行の市営バスと同水準で検討
・高齢者バス等も引き続きご利用いただけるよう検討
- 利用対象** どなたでも利用できます（ハイカーや観光客などを含む）
- ご利用方法** ①予約を行ってください
②発車時間までに予約した停留所にお越しください（発車予定時間までに来られない場合はキャンセルとなります）
※キャンセル料金はかかりません

- 予約方法** 以下の2つの方法での予約を想定
・電話予約
・インターネット予約（スマホ・PC）

運行経路

原大橋を拠点に右・左回りの2路線を設定

